

海が大変だ！

海洋プラスチックごみ問題を考える

学校の関連学習単元

小 4/ 理科 雨水のゆくえ
小 5/ 理科 流れる水のはたらきと土地の変化
小 6/ 社会 私たちの生活と環境
小 6/ 理科 生物の地球環境

プログラム概要

対象 幼 小1 小2 小3 小4 小5 小6 中学 大人
○ ◎ ○

分野	時期	時間	人数	場所	講師	費用
廃棄物	通年	45分 (1時限)	40人 (1クラス)	教室	1人	無料



廃棄物

ねらい

- ・海洋プラスチックごみ問題の現状を知る。
- ・問題解決のために自分が出来ることを考え、行動するとともに、海洋プラスチックごみ問題について伝える行動ができるようにする。

実施内容

- ・海洋プラスチックごみの現状と影響について説明を聞く。
- ・3R（リデュース、リユース、リサイクル）+Recover（リカバー：清掃活動）の必要性を知る。
- ・海洋プラスチックごみ問題について、自分たちに出来ることを考える。

使用する材料・道具

◇受講者が準備するもの ◆講師が準備するもの

- ◇パワーポイントが使用できるパソコン（CD-ROMの読み込み可能なもの） ◆海洋ごみサンプル
- ◇プロジェクター、スクリーン ◆ワークシート
- ◇ごみサンプル・教材等を置く台

講座活用のワンポイントアドバイス

- ・「今日から我が家の分別係」「ごみはトラベラー」のプログラムと併せて受講すると、理解が深まります。
- ・講座の実施後に海岸等の清掃活動に取り組むと、講座で学んだことや考えたことを実践することができます。

実施機関

浜松市環境政策課（浜松市環境学習指導者）

下記連絡先へ実施日の1ヶ月前までに申し込んでください。

また、実施決定後、事前打合せが必要なため、講座実施の2週間前までに講師へご連絡ください。

問合せ・申込先：浜松市環境政策課 TEL:053-453-6149 FAX:050-3606-4345

E-mail:kankyout@city.hamamatsu.shizuoka.jp



プログラムの展開例

時間	内容	指導のポイント
導入 15分	<p>○海洋プラスチックごみのことを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみの実態をスライド写真と現物ごみサンプルで確認する。 ・世界で年間に流出する800万トンの海洋ごみの量感を知る。 ・三種類に分別される海洋ごみについて学ぶ。 ・海洋ごみが世界中を漂う二つの自然現象について学ぶ。 <p>○プラスチックってなに？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックの特性について学ぶ。 ・プラスチックの長所と短所について学ぶ。 ・身の回りにあるプラスチック製品を探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみの多くが、生活ごみであること、その中でもプラスチック製のごみが多いことを理解させる。 ・プラスチックの恩恵と問題の両方を認識させる。(プラスチックを一方向的に悪者扱いとしない) ・プラスチックを発明した人間の責任について理解する。
展開 20分	<p>○海洋プラスチックごみの発生原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海のごみはどこからくるのか考える。 ・ポイ捨て、ごみ集積所、突風や台風の影響を学ぶ。 ・流れ着いた外国のごみサンプルから発生原因を考える。 <p>○海洋プラスチックごみが与える影響</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物への影響。 ・私達の暮らしへの影響。 ・マイクロプラスチックとはなにか。 ・食物連鎖とはなにか。 ・肉眼では見ることができないマイクロプラスチックの影響。 <p>○3Rの大切さを学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Reduce】ごみを減らそう。 ・【Reuse】繰り返し使おう。 ・【Recycle】資源として再利用しよう。 ・優先順位の理由を学ぶ。 ・リサイクルには3種類あることを学ぶ。 <p>○「Recover (リカバー)」（清掃活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切に処分されずに自然界に流出したごみは、人間が拾い集めるしかないことを伝える。 ・浜松市の取り組み「ウェルカメクリーン作戦」「浜名湖クリーン作戦」の紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ごみサンプルから発生源を伝える。 ・湖である浜名湖に何故漂着ごみが多いのかを考えさせる。 ・ごみの集積場の実態を伝える。 ・マイクロプラスチックの実態と生物への影響を考える。 ・3Rの優先順位の理由を考える。 ・「レジ袋」と「エコバッグ」のどちらにも利点があることを説明した上で、環境に良いことが簡単には判断できないことを伝えるとともに、場面によって使い分けることが重要であることを補足する。 ・3Rができていても海岸にごみが多い理由を気付かせる。 ・海洋プラスチックごみ問題は、3Rの他にリカバーも大切であることを認識させる。 ・一度捨てられたごみは、何十年、何百年に亘って残り続けることを理解させる。 ・人工物(プラスチック)と自然物のそれぞれの特徴についても補足する。 ・ポイ捨てだけでなく、ごみ集積所等からの非意図的な流出も原因であることを補足する。 ・ポイ捨てをしない、海岸清掃をする、といった対症療法的な取り組みだけでなく、ごみが発生しない(しにくい)生活様式に変えていく必要もある。
まとめ 10分	<p>○自分たちに出来ることを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使用し、講座内容を復習する。 ・自分にできることを考え、発表する。 <p>○海洋プラスチックごみに対する取り組み紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の事例 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表に対して追加情報を補足する。 ・身近でできる取り組みを紹介する。 ・海洋ごみの問題は世界の協力関係がないと解決しないことを伝える。 ・プラスチックをなくすのではなく、その使い方や暮らし方を見直していくことが重要であると伝える。

